

14時30分解禁

平成30年5月 全国百貨店売上高概況

平成30年6月22日

I. 概 況

1. 売上高総額	4,505億円余
2. 前年同月比	-2.0% (店舗数調整後/3か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	80社 220店 (平成30年4月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,550,554㎡ (前年同月比:-3.2%)
5. 総従業員数	70,142人 (前年同月比:-3.7%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	10-12月 -0.1%、11-1月 0.1%、12-2月 -0.9%、 1-3月 -0.7%、2-4月 0.0%、3-5月 -0.4%

[参考] 平成29年5月の売上高増減率は0.0% (店舗数調整後)

【特 徴】

5月の売上高は2.0%減と3か月ぶりに前年を下回った。高額消費やインバウンドは好調だったが、土曜1日減による入店客数への影響に加え、前月の高温による夏物需要前倒しと当月の気温低下が相まって盛夏商材の動きが鈍く、前年実績を割り込む結果となった。

顧客別では、インバウンド(シェア6.4%)が49.0%増の約287億円と好調を維持。一方、国内市場(シェア93.6%/4.2%減)は低調でマイナス幅が前月より2.7ポイント広がった。

地区別では、10都市が0.2%減と10か月ぶりにマイナスに転じた。富裕層とインバウンド市場の大きい5地区(札幌、東京、名古屋、大阪、福岡)はプラスしたが、他をカバーするまでには至らなかった。地方(10都市以外の地区)は6.1%減(13か月連続)と苦戦が続いている。

商品別では、雑貨が6.7%増(18か月連続)と堅調で、売上構成比も前月同様、全体の2割超となった。依然として二桁の高い伸びを示す化粧品(10.9%増)と、高級腕時計やジュエリーなどを中心とした高額商材(美術・宝飾・貴金属/7.3%増)が牽引した。また、身のまわり品もラグジュアリーブランドやアクセサリーなどの装飾品が動き0.1%増と5か月連続プラス。

一方、回復傾向にあった衣料品は低温の影響から夏物需要が減退して5.9%減。食料品(3.9%減)は菓子や惣菜などが不調でマイナスが続いている。家庭用品(0.7%減)は、家具、家電がプラスしたものの、売場リースによる面積減もあり全体では前年に届かなかった。

【要 因】

(1) 天 候 : 気象庁発表「5月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇北日本から西日本を中心に暖かい空気に覆われ、全国的に気温が高く、東日本と沖縄・奄美ではかなり高かった。また、北・東・西日本では降水量が多く、北日本日本海側ではかなり多かった。

(2) 営業日数増減 30.8日(前年同月比 -0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(// -1日/土曜1日減)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数122店舗)

①増加した: 22店、②変化なし: 32店、③減少した: 68店

(5) 5月歳時記(GW、母の日)の売上(同上/有効回答数90店舗)

①増加した: 11店、②変化なし: 52店、③減少した: 27店

全国百貨店 売上高速報 2018年05月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	450,592,395	100.0	-2.0 (-1.8)
10都市	317,885,574	70.5	-0.2 (0.8)
札幌	12,017,577	2.7	1.4
仙台	5,426,973	1.2	-2.9
東京	124,788,949	27.7	1.3
横浜	26,946,535	6.0	-2.9
名古屋	29,129,705	6.5	0.4
京都	18,484,906	4.1	-1.3
大阪	65,173,845	14.5	5.2
神戸	10,831,908	2.4	-33.9 (-8.0)
広島	8,846,171	2.0	-5.7
福岡	16,239,005	3.6	1.0
10都市以外の地区	132,706,821	29.5	-6.1 (-7.6)
北海道	1,179,713	0.3	-6.6
東北	6,462,506	1.4	-6.5 (-9.8)
関東	59,308,727	13.2	-3.1 (-7.9)
中部	10,364,174	2.3	-10.3 (-10.7)
近畿	17,444,016	3.9	-16.2 (-9.8)
中国	9,852,549	2.2	-6.0
四国	7,035,697	1.6	-4.2
九州	21,059,439	4.7	-4.3

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	450,592,395	100.0	-2.0 (-1.8)
紳士服・洋品	30,765,228	6.8	-8.2 (-8.3)
婦人服・洋品	88,516,479	19.6	-4.9 (-5.0)
子供服・洋品	11,445,194	2.5	-7.0 (-6.8)
その他衣料品	9,680,659	2.1	-5.7 (-6.2)
衣 料 品	140,407,560	31.2	-5.9 (-6.0)
身のまわり品	62,469,642	13.9	0.1 (0.2)
化粧品	45,952,514	10.2	10.9 (11.1)
美術・宝飾・貴金属	28,270,699	6.3	7.3 (7.6)
その他雑貨	16,488,298	3.7	-4.6 (-2.8)
雑 貨	90,711,511	20.1	6.7 (7.2)
家 具	4,870,797	1.1	4.2 (3.7)
家 電	1,351,005	0.3	27.3 (26.9)
その他家庭用品	13,502,857	3.0	-4.5 (-4.6)
家 庭 用 品	19,724,659	4.4	-0.7 (-0.9)
生 鮮 食 品	21,951,490	4.9	-4.3 (-3.8)
菓 子	28,499,978	6.3	-6.1 (-5.5)
惣 菜	26,552,287	5.9	-3.9 (-3.2)
その他食料品	32,992,333	7.3	-1.7 (-1.4)
食 料 品	109,996,088	24.4	-3.9 (-3.4)
食 堂 喫 茶	12,524,502	2.8	-5.3 (-5.3)
サ ー ビ ス	4,953,455	1.1	-6.0 (-6.1)
そ の 他	9,804,978	2.2	-4.1 (-4.6)
商 品 券	9,313,269	2.1	-4.1 (-5.2)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | －0.2% (店舗数調整後／10か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | －6.1% (店舗数調整後／13か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	－0.2	－0.1	10か月ぶりマイナス
札幌	1.4	0.0	4か月連続プラス
仙台	－2.9	0.0	4か月連続マイナス
東京	1.3	0.4	4か月連続プラス
横浜	－2.9	－0.2	2か月連続マイナス
名古屋	0.4	0.0	2か月連続プラス
京都	－1.3	－0.1	3か月ぶりマイナス
大阪	5.2	0.7	17か月連続プラス
神戸	－33.9	－0.9	9か月連続マイナス
広島	－5.7	－0.1	20か月連続マイナス
福岡	1.0	0.0	10か月連続プラス
10都市以外の地区	－6.1	－1.9	13か月連続マイナス
北海道	－6.6	0.0	20か月連続マイナス*
東北	－6.5	－0.1	9か月連続マイナス*
関東	－3.1	－0.4	2か月連続マイナス
中部	－10.3	－0.3	12か月連続マイナス
近畿	－16.2	－0.7	15か月連続マイナス
中国	－6.0	－0.1	2か月連続マイナス*
四国	－4.2	－0.1	6か月連続マイナス
九州	－4.3	－0.2	6か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が18か月連続、身のまわり品が5か月連続のプラスとなった。また家庭用品が29か月連続、食料品が12か月連続、衣料品が6か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が38か月連続、美術・宝飾・貴金属が14か月連続、家電が2か月連続、家具が8か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-2.0	—	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-8.2	-0.6	2か月連続マイナス
婦人服・洋品	-4.9	-1.0	2か月連続マイナス
子供服・洋品	-7.0	-0.2	8か月連続マイナス
その他衣料品	-5.7	-0.1	31か月連続マイナス
衣料品	-5.9	-1.9	6か月連続マイナス
身のまわり品	0.1	0.0	5か月連続プラス
化粧品	10.9	1.0	38か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	7.3	0.4	14か月連続プラス*
その他雑貨	-4.6	-0.2	13か月連続マイナス*
雑貨	6.7	1.2	18か月連続プラス
家具	4.2	0.0	8か月ぶりプラス
家電	27.3	0.1	2か月連続プラス
その他家庭用品	-4.5	-0.1	26か月連続マイナス
家庭用品	-0.7	0.0	29か月連続マイナス
生鮮食品	-4.3	-0.2	50か月連続マイナス*
菓子	-6.1	-0.4	6か月連続マイナス*
惣菜	-3.9	-0.2	8か月連続マイナス*
その他食料品	-1.7	-0.1	2か月連続マイナス*
食料品	-3.9	-1.0	12か月連続マイナス
食堂喫茶	-5.3	-0.2	13か月連続マイナス
サービス	-6.0	-0.1	6か月連続マイナス
その他	-4.1	-0.1	2か月ぶりマイナス
商品券	-4.1	-0.1	87か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成30年5月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年6月22日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,247億円余
2. 前年同月比	1.3% (4か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭1.7% (90.6%) : 非店頭-2.4% (9.4%) () 内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成30年4月対比±0店)
5. 総店舗面積	841,329㎡ (前年同月比:-0.7%)
6. 総従業員数	18,185人 (前年同月比:-1.9%)
7. 3か月移動平均値	10-12月 1.5%、11-1月 1.5%、12-2月 0.5%、 1-3月 0.1%、2-4月 0.8%、3-5月 1.0%

[参考] 平成29年5月の売上高増減率は-1.1%

【特 徴】

- (1) 東京地区の5月の入店客数は7か月連続プラスの1.0%増。土曜1日減というマイナス与件をカバーする形で、都内各店の趣向を凝らした集客施策展開が奏功した。また、春先に完了した各店の改装効果も表れ、売上高は4か月連続プラスの1.3%増となり、内容的にも商品別主要5品目のうち4品目で前年をクリアした。
- (2) 雑貨は18か月連続プラスと増勢を維持。前月に続き、主要5品目で衣料品に次ぐシェアとなった。国内外ともに高伸を続ける化粧品はスキンケア関連が好調な他、一部店舗における販促イベントや新ブランド投入・売場拡張などの効果も見られた。また、高額商材では高級腕時計をはじめ、絵画、宝飾品などが動いた。
- (3) 身のまわり品は、ラグジュアリーブランドのバッグや小物をはじめ、アクセサリなど装飾品が好調で5か月連続プラス。家庭用品は、一部外商大口受注などの特需効果から3か月ぶりにプラス転換した。食料品も、物産催事や中元ギフトセンターの前倒しなどが牽引する形でプラスに転じた。
- (4) 一方、主力の衣料品については、低温多雨の天候与件から夏物需要が盛り上がりせず、3か月ぶりのマイナスとなった。
- (5) 6月中間段階の商況は、2.5%増(6/18)で推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 7店、③減少した: 7店
- (3) 5月歳時記(GW、母の日)の売上 (同上/有効回答数13店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 8店、③減少した: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2018年05月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	124,788,949	100.0	1.3
紳士服・洋品	10,963,109	8.8	-4.8
婦人服・洋品	21,228,352	17.0	-1.9
子供服・洋品	2,614,268	2.1	-1.4
その他衣料品	2,077,324	1.7	-5.3
衣 料 品	36,883,053	29.6	-2.9
身のまわり品	18,579,742	14.9	1.9
化粧品	14,280,824	11.4	13.8
美術・宝飾・貴金属	8,967,825	7.2	7.5
その他雑貨	5,349,834	4.3	1.9
雑 貨	28,598,483	22.9	9.4
家 具	1,391,757	1.1	12.3
家 電	1,050,087	0.8	35.7
その他家庭用品	3,361,016	2.7	-6.5
家 庭 用 品	5,802,860	4.7	3.5
生 鮮 食 品	4,123,349	3.3	-1.3
菓 子	7,119,246	5.7	-0.8
惣 菜	6,166,012	4.9	-1.7
その他食料品	8,589,539	6.9	3.0
食 料 品	25,998,146	20.8	0.1
食 堂 喫 茶	2,965,101	2.4	-3.3
サ ー ビ ス	2,099,293	1.7	-7.1
そ の 他	3,862,271	3.1	-1.0

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	2,170,510 千円	2.5
従 業 員 数	18,185 人	-1.9
店 舗 面 積	841,329 m ²	-0.7
営 業 日 数	31.0 日	前年 31.0 日

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が18か月連続、身のまわり品が5か月連続、食料品が2か月ぶり、家庭用品が3か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が38か月連続、美術・宝飾・貴金属が13か月連続、その他雑貨が6か月連続、家電が2か月連続、その他食料品が2か月ぶり、家具が6か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.3	—	4か月連続プラス
紳士服・洋品	－4.8	－0.4	3か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	－1.9	－0.3	3か月ぶりマイナス
子供服・洋品	－1.4	0.0	4か月ぶりマイナス
その他衣料品	－5.3	－0.1	8か月連続マイナス
衣料品	－2.9	－0.9	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	1.9	0.3	5か月連続プラス
化粧品	13.8	1.4	38か月連続プラス＊
美術・宝飾・貴金属	7.5	0.5	13か月連続プラス＊
その他雑貨	1.9	0.1	6か月連続プラス＊
雑貨	9.4	2.0	18か月連続プラス
家具	12.3	0.1	6か月ぶりプラス
家電	35.7	0.2	2か月連続プラス
その他家庭用品	－6.5	－0.2	14か月連続マイナス
家庭用品	3.5	0.2	3か月ぶりプラス
生鮮食品	－1.3	0.0	27か月連続マイナス＊
菓子	－0.8	0.0	5か月連続マイナス＊
惣菜	－1.7	－0.1	5か月連続マイナス＊
その他食料品	3.0	0.2	2か月ぶりプラス＊
食料品	0.1	0.0	2か月ぶりプラス
食堂喫茶	－3.3	－0.1	9か月連続マイナス
サービス	－7.1	－0.1	2か月連続マイナス
その他	－1.0	0.0	5か月連続マイナス
商品券	2.5	0.0	2か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>